

日本小児科学会専門医とは

小児科専門医は、新生児から思春期（一般的に 15 歳～18 歳頃まで）の子どもの成長、発達、そして心身の病気をトータルに診察するスペシャリストです。大人の体をただ小さくしただけではない、子ども特有の体質や病気の特性に対応するために、小児科専門医の診察を受けることには以下の重要な理由があります。

1. 子ども特有の病気を見極められる

- **専門知識:** 川崎病、麻疹、水痘、小児がんなど、子ども特有の病気や先天性の疾患に精通しています。
- **初期症状の判断:** 大人とは異なる、子ども特有の症状の出方（急な発熱、けいれんなど）を正しく評価できます。[1, 2]

2. 体の成長と心の発達をトータルで評価できる

- **発育の確認:** 身長や体重の増え方だけでなく、首すわりや歩行などの「運動発達」、言葉の出方などの「精神発達」を総合的にチェックします。
- **健診との連動:** 乳幼児健診や予防接種のスケジュール管理を含め、病気がないときの健康維持もサポートします。[1, 2]

3. 正確な薬の処方（体重換算）ができる

- **繊細な処方:** 子どもの薬の量は、年齢だけでなく**体重（kg）単位**で細かく計算する必要があります。
- **安全性の確保:** 未熟な肝臓や腎臓に負担をかけないように、子どもに安全な薬の種類と量を的確に選択します。

4. 症状を言葉にできない子どもからサインを読み取れる

- **観察力:** 「どこが、どう痛いのか」を説明できない赤ちゃんや幼児の顔色、泣き方、呼吸の様子、機嫌などから、重大な病気が隠れていないかを察知します。
- **診察の工夫:** 子どもが怖がらないよう、おもちゃを使ったり声かけを工夫したりして、泣かせずに診察する技術を持っています。

5. 家族（保護者）の不安に寄り添うケア

- **育児の相談役:** 病気への対応だけでなく、夜泣き、離乳食、イヤイヤ期、不登校など、育児全体の悩みに対して医学的な観点からアドバイスをします。



証 定 認

布上 孝志 殿

貴方を小児科専門医
として認定します

認定期間

2025年10月 1日から
2031年 3月31日まで

認定日: 2025年 8月 22日



公益社団法人
日本小児科学会

会 長

後田 順子



一般社団法人
日本専門医機構

理事長

渡辺 毅

